

第3回夕張市総合戦略検証委員会の結果等について

夕張市総合戦略検証委員会

1 日時及び場所 平成30年10月11日(木) 13:00~16:00 夕張市役所特別会議室

2 検証結果

夕張市地方人口ビジョン及び地方版総合戦略(以下「総合戦略」という。)登載事業の進捗状況、課題等について、検証委員会において市各課担当からの説明を聴取し、確認した。

大部分の事業について順調に進行中であることから、引き続き円滑に推進を図られることを期待するが、疑問点及び課題と思われる点について質疑等を実施した。

3 質疑等内容

(戦略1-①:若年層・女性向け低家賃賃貸住宅の整備について)

委員発言:5年前に比べれば、相当民間賃貸住宅が提供できるようになってきている。今後は例えば紅葉山地域で2LDK以上とか、ペット同居可などの選択肢を提示してくる方の需要に応えられるようにしていくべき。そうした中で、今回若菜地区に民間賃貸住宅が整備されたのはよかったと思う。あとは、単身者以外の需要に応えられるようになってくれば、住宅を紹介しやすくなるのかなと思う。

市応答:清水沢地区がまちづくりマスタープラン上で都市拠点として位置づけられている中で、同地区に集中的に民賃を整備してきた経過がある。それについての効果は、同地区において社会増として出てきている。多様な選択肢を用意すべきとの委員の意見に対しては、施主の考えもあるが検討したいと思う。

委員発言:市外から市内への通勤者は、どの市町から来ているのか。

市応答:基本的には由仁町、栗山町、長沼町など近隣の町、遠いところからは札幌、岩見沢からの通勤者もいる。

(戦略1-②:子育て世帯向け住宅取得・リフォーム支援事業について)

委員発言:平成29年度の実績についてはすべて市内の方か。市外からの転入者の利用はあったか。

市応答:平成29年度の新築1件は市内の方の利用。中古住宅リフォーム7件のうち1件は市外から転入された方の利用である。

委員発言:市外からの転入は近隣市町の方か。

市応答:その通り。

委員発言:予算の範囲内の支援となるのか、それとも、上限なく申請のあった件すべて支援することになるのか。

市応答:基本的に予算の範囲内で上限を決めている。

委員発言：予算の範囲を超える申請件数があった場合はどうなるのか。

市応答：状況を見てだが、補正予算を計上する可能性もある。

（戦略1-⑤：廃校や生活館を活用した地域コミュニティ機能の拡充（集落拠点）について）

委員発言：未活用の廃校はあるのか。

市応答：使用できる廃校はすべて使用している状況である。

委員発言：補助金は毎年の運営に対するものか。

市応答：イニシャルコストに対する補助として行っている。事業を始めるに当たり、事業目的にあるように整備するために国の交付金を原資とした補助を行っている。

（戦略1-⑥：空き市営住宅を活用した障がい者自立支援住宅の整備について）

委員発言：市営住宅は用途廃止するのではなくて、市営住宅のまま事業者が活用するのか。

市応答：用途廃止するのではなくて、市営住宅の目的外使用として活用することとなる。

委員発言：どの棟を使うかなどに制限はあるのか。

市応答：特に制限はしていない。ただ、障がい者自立支援住宅として活用する予定のある場合は事前相談をお願いしている。

（戦略1-⑧：空家バンク制度を活用した不動産の流動化促進について）

委員発言：相続の問題が発生してくると思う。空家バンク掲載者が、相続人ではなかったり、名義人と違うとなった場合、空家の売買の話がついた後に手間になってしまう。かといって、名義を掲載者にしないとだめですよ、という話をしても、今度はそれを手間として掲載をやめてしまう可能性が高いので、その辺をどうするかを考えなければならない。

市応答：非常に難しい問題で、それが原因で現在市のほうで空家を掲載できていない状況である。

委員発言：夕張市の場合、不動産に炭鉱長屋時代からの共有関係が結構残っており、空家バンク掲載時に共有者全員の了承をとることの難しさがある。特に長い間空家になっている場合、権利関係が複雑になっている場合がほとんどである。

市応答：市としても行政書士会と連携している中で、その辺りの問題解決の一助となっただけことも今後検討したい。

（戦略1-⑩：こども達が集う公園整備について）

委員発言：子どもの遊び場として、養護老人ホーム夕張紅葉園（旧のぞみ小学校）のグラウンドの利用が多いが、同グラウンドの整備を市がバックアップしていくことは可能なのか。

市応答：夕張紅葉園のグラウンドについては、同施設を運営する社会福祉法人夕張みどりの会に運営を担っていただくことが基本となる。

（戦略1-⑪：こども一時預かり機能の強化について）

委員発言：平成28年及び平成29年の利用の実人数がそれぞれ1名だが、利用が少ないのは、子どもが少ないからなのか、周知の問題なのか。

市応答：保育園に入園していない子どもが対象の事業である。ほとんどの子供が保育園に入っている中で、対象者がそもそも多くないことが要因である。保育園に入っていれば、一時預かりや延長保育などが利用できる。

(戦略2-①：「活動人口」と「関わり人口」を繋ぐ地域交流プラットフォームづくりについて)

委員発言：「夕張 Likers！」について、運営主体はどこか。

市応答：事業自体は企画課であるが、テーマを持った窓口としないと求心力に欠けるので、今回ありさだの杜が得意としているコミュニティの部分と、清水沢プロジェクトが得意としている歴史文化の部分を活用すべく、両者に企画立案を委託している。

委員発言：「夕張 Likers！」のウェブサイトについて、検索エンジンによる検索に引っかかるように改善する必要がある。

市応答：改善する。

委員発言：「夕張 Likers！」の目的は。

市応答：人口減少にともない、地域を担うプレーヤー不足が生じている中で、市外の方、特に夕張にゆかりのある人の力をお借りしていくという手段の一つ。

委員発言：「夕張 Likers！」になることの利点は。

市応答：通常のご近所づきあいの関わりかたを想定しているので、あえて言うなら夕張にかかわる実感が利点である。

委員発言：夕張観光コンベンション協会を設立し、協会事務局長就任を見据えて地域おこし協力隊を採用するとのことだが、地域おこし協力隊に対する育成やバックアップ体制はどういうものになるか。

市応答：事務局長候補となるような中核的人材として今回採用を行ったところ。すでに採用している地域おこし企業人や地域おこし協力隊が平成31年度で終了してしまうという中で、それまでに今回採用した隊員については、隊員の思いも尊重しながら、課として育成していく。それと並行して、観光振興の組織固めを行っていきたいと思っている。

(戦略3-②：農業者、農協、市の連携による産地力強化について)

委員発言：夕張メロンについて、メロン生産における労働力が不足しているとのことだが、どれくらいの労働力が必要なのか。

市応答：昨年度に実施した調査によると、おおよそ100前後である。

委員発言：それだけの数を冬季にスキー場で雇用するのは不可能と思うので、逆に最初からスキー場に勤めている人に目をつけて、募集していく方が効果的ではないか。他にも、スキー協会やスキー連盟にアプローチする方法もある。

市応答：取組の参考とさせていただく。

委員発言：中国人技能実習生についての冬季活用については可能か。

市応答：技能実習生として来ているので、メロン栽培以外の仕事には制度上つくことはでき

ない。

(戦略3-⑤：ズリ山(石炭)を活用した稼働防災事業の推進について)

委員発言：発電用の石炭を商社に売っている中で、北電の奈井江と砂川の石炭火力発電所が閉所になったときに、買取価格が下落するおそれはないか。

市応答：今のところ、需要家は北電以外の民間発電所なので、価格にあまり影響はないと考えるが、北電の発電所にこれまで売られていたものがこれからどこへ流れていくのか、ということが懸念材料といえる。

(戦略3-⑦：障がい者の就労の場確保について)

委員発言：障がいを持った住民の内、就労を希望していて、現在就労していない人はどの程度いるのか。

市応答：平成29年度に障がい福祉計画を策定するに当たり、市内の障がい者に対して実施したニーズ調査で把握した中で、具体の数値は現在持ち合わせていないが、働く場が欲しいという声と、今働いている方についてはもっと工賃がもらえる職場が欲しいという声が多かった。

参考として、現状については、福祉的就労関係事業所で働いている方は、A型事業所とB型事業所でそれぞれ24名と36名である。

(戦略4-①：小中高連携による郷土愛教育の推進について)

委員発言：スキーのレンタル代補助について、どのくらいの利用があるか。

市応答：平成29年度の実施で、34人の利用があったところである。

委員発言：スキー授業が始まっているところだが、保護者や生徒、教員等からの反響は。

市応答：始まる前には反対する意見も一部あったが、スキー授業の意義、夕張の子が地元のスキー場で滑れるようになって、外に出て行った時の強みにするといった説明をしたところ、ご理解をいただけているところである。

委員発言：スノーボード授業については実施しないのか。

市応答：授業としては、まずはスキーからと考えているところである。

(戦略4-③：課題から希望を創る高校魅力化プロジェクトについて)

委員発言：生徒数など、廃校となる基準はどのようなものか。

市応答：夕張高校は地域連携特例校となったので、10名というのが基準となる。しかし、10名を切らずとも、生徒が僅かしかない高校に通わせたい、通いたいとは思わないということがあるので、数値上の油断はできないが、10名を切らなければ、高校として維持は可能。

また、地域に必要な人材を育成するという名目で地域連携特例校となっているので、地元中学校からの進学率をキープできれば、廃校という議論にはならないが、いずれにせよ不断の取組みが必要である。

委員発言：市内中学校から市外高校に進学する要因は。

市応答：部活動と、新しい人間関係を求めて出ていく子が多い。

委員発言：マンツーマンオンライン英会話や海外短期留学など、夕張高校でしかできないものがあるという方面でアピールしていくべき。

(戦略4-⑥：地域を活性化させるためのキャリア教育について)

委員発言：マンツーマンオンライン英会話について、どのような効果が出てきているか。

市応答：コミュニケーション力や、英語に対する向学心に効果が出てきており、英語以外の授業に対しても集中力が上がってきているという報告を受けている。

(戦略5-①：都市拠点機能の整備によるコンパクトシティの推進について)

委員発言：コンパクトシティ施策の推進について、建設課から説明があったところだが、当該施策は建設課が中心となって推進していくということか。

市応答：建設課が都市拠点の中心となる拠点複合施設の整備を行うことになっている関係上、同課が説明したところである。

(戦略5-②：安心の地域医療体制の構築について)

委員発言：今後若菜地区に市立診療所を建設するに当たり、住民の意見を聞く場を設けるのか。

市応答：場所を決めてからは、ふれあいトークにおいて意見を聞いたほか、建設地周辺の若菜地区の全町内会を回り、説明を重ねているところである。今後基本構想、基本計画を作成し、議会にお示ししたあとに、パブリックコメントを含め、何らかの形で住民の意見を伺っていきたい。

委員発言：診療所に通所している方の意見を拾うことができれば良いと思う。

委員発言：住民からは清水沢地区に建設してほしいという意見はないか。

市応答：医師の確保のための社会医療法人制度活用の必要性を含め市長が丁寧に説明申し上げたこともあり、特段そういった意見はなかった。

委員発言：市内の民間医療機関についての今後の継続性はどうか。

市応答：一部高齢の先生もいらっしゃるが、今回移転改築に際し、連携をさらに強化するという点で改めてお話を聞いた中では、できるだけ続けていくというお話をいただいたところである。